

令和4年度



ふくおかしの 家計簿

目次

予算とは？何に使っているの？

- 予算って何？令和4年度の予算は？……………01
- 収入(歳入)と支出(歳出)の内訳は？……………01～02
- 市民一人あたりにすると？……………03
- 予算を「家計」に例えると？……………04
- どのような事業に使うの？……………05～10

福岡市の財政状況はどんなの？

- 借金はいくらあるの？他の政令指定都市と比べるとどうなの？…11
- なぜ借金が増えたの？借金は何に使っているの？……………12
- 収入や支出はどうなってるの？……………13～14
- 福岡市の財政状況のまとめ……………14

福岡市の財政をどうやりくりしていくの？

- 財政の現状と見通しは？……………15
- 将来にわたり持続可能な財政運営に向けた取組みの方向性は？……………16
- 将来にわたり持続可能な財政運営に向けた令和4年度における取組みは？…17～18

福岡市の
令和4年度予算
財政状況
将来にわたり持続可能な財政
運営に向けた取組み
を紹介します！

1 予算とは？ 何に使っているの？

【この冊子で使われている数値は、各項目で四捨五入していることがあるため、合計などが一致しない場合があります。】

●予算って何？

福岡市に1年間に入ってくる収入を見積もり、その使い道を決めるのが予算です。つまり、みなさんが収めた税金などが、どのような事業にどれくらい使われるのかを示したものです。福岡市の予算は、どの収入がどこに使われているか、収入と支出の関係をはっきりさせるため、3つの会計に分かれています。

●令和4年度の予算は？ ()は前年度

全会計 2兆857億円 (2兆1,564億円) 前年度比 3.3%減

一般会計 1兆410億円 (1兆545億円) 前年度比 1.3%減
福祉や教育、道路や公園の整備など行政の基本的な事業を行う会計(予算の中心)です。

特別会計 7,155億円 (7,712億円) 前年度比 7.2%減
使用料など特定の収入で、特定の事業を行う場合に設ける会計です。福岡市には現在13会計(国民健康保険事業、介護保険事業など)あります。

企業会計 3,291億円 (3,307億円) 前年度比 0.5%減
民間企業と同じように、事業収益で運営している会計です。福岡市には現在5会計(モーターボート、下水道、水道、工業用水、地下鉄)があります。

●収入(歳入)と支出(歳出)の内訳は？ ()は前年度

<一般会計の収入> 収入には、市税のほか国や県から交付されるお金や借入金などがあります。

用語の解説

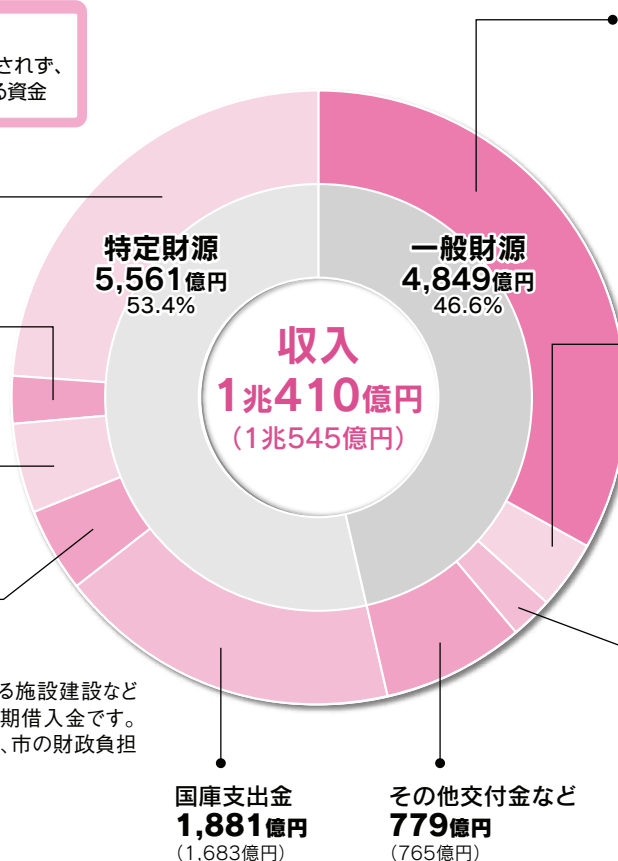
一般財源
市税などのように用途が特定されず、どのような経費にも使用できる資金

諸収入など
2,472億円
(2,976億円)

使用料及び手数料
264億円
(262億円)

県支出金
476億円
(457億円)

市債
468億円
(486億円)
道路や学校など長期間使用する施設建設などの財源として市が借り入れる長期借入金です。毎年度一定額を返済することで、市の財政負担を平準化しています。



市税 3,455億円 (3,166億円)
個人や法人が納める市民税や、土地や家屋などを持っている方に納めていただく固定資産税など、市民のみなさんに負担いただくお金です。宿泊税も市税に含まれます。

地方交付税 385億円 (315億円)
地方の税収の差などを調整するため、国から自治体に交付されるお金です。

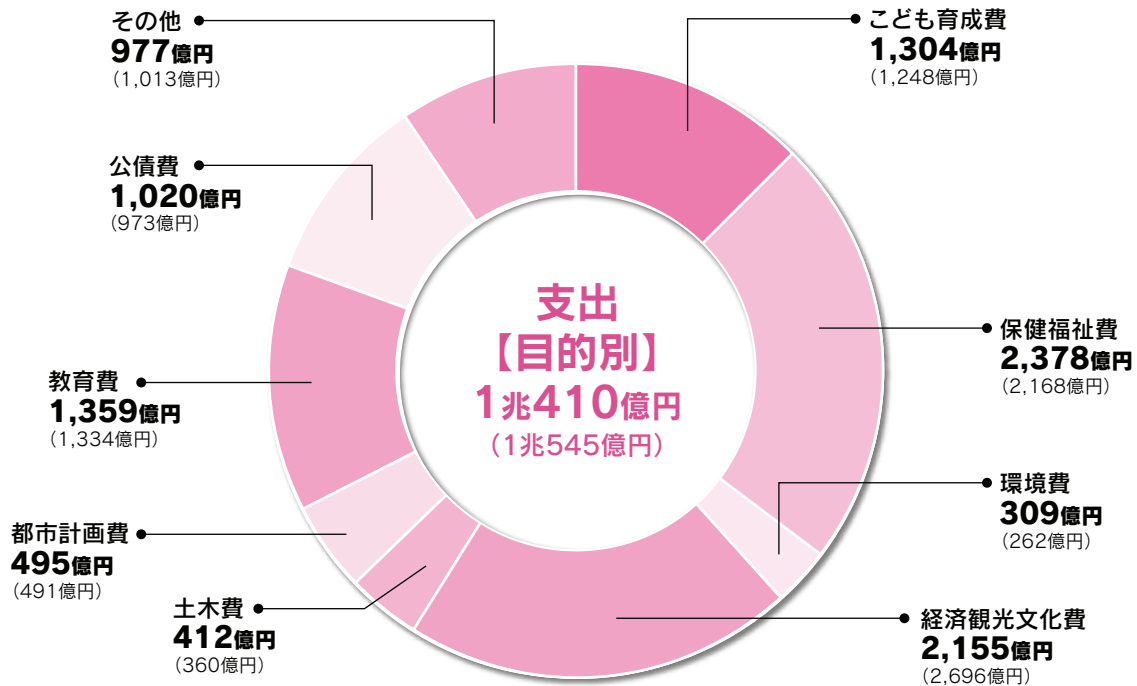
臨時財政対策債 230億円 (435億円)
地方交付税の代わりとして地方が発行する市債です。その償還財源は、国から地方交付税で全額措置されます。

国庫支出金 1,881億円 (1,683億円)

その他交付金など 779億円 (765億円)

<一般会計の支出>

【目的別】 予算では、目的ごとにどれだけ使うのかを定めています。
目的別の支出の内訳を見ると、子育てや教育、保健・福祉・医療などにかかる予算が全体の48%を占めています。



【性質別】 予算は目的別だけでなく、人件費や物件費など性質による分類からも、どれだけ使うのか見ることができます。

用語の解説

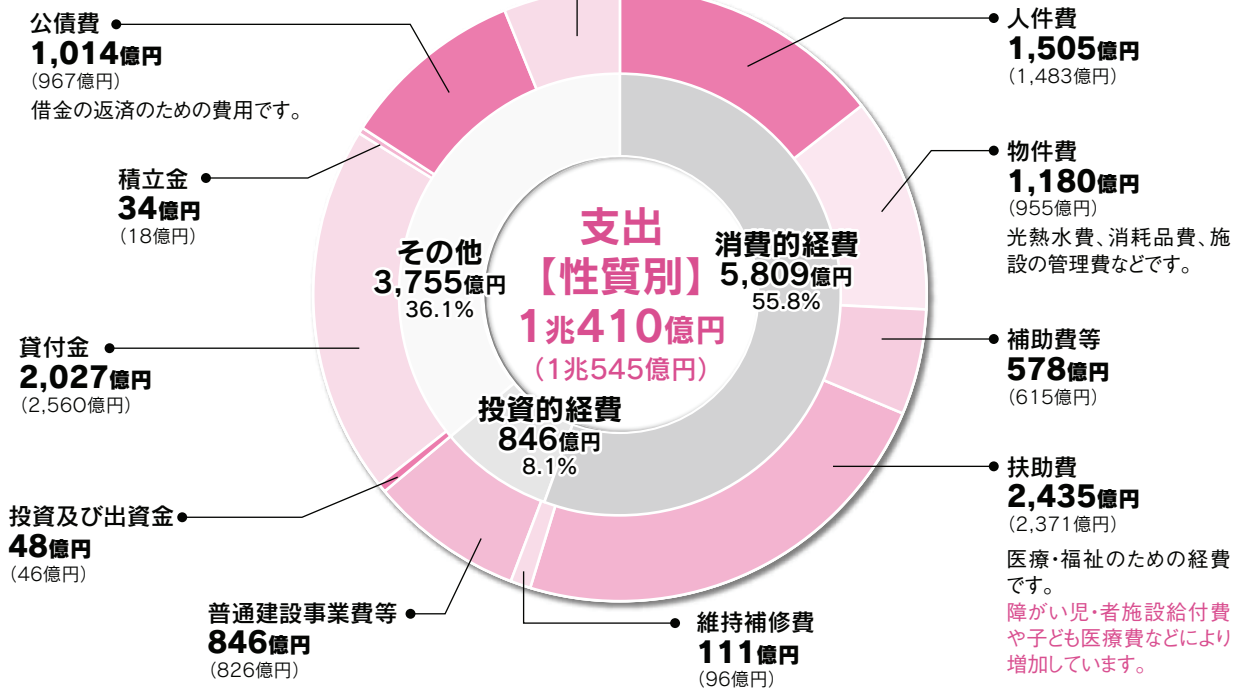
投資的経費

道路や公園、学校など社会資本を整備するための経費

繰出金

632億円

(609億円)
特別会計・企業会計に支出する経費です。



●市民一人あたりにすると？

一般会計の予算を市民一人あたりに換算すると約66万円となり、市民生活の向上や地域経済の活性化などいろいろな施策に取り組んでいます。

	令和4年度 予算 億円	市民一人あたりの予算 ※		円	%	関連する主なSDGs※>
		円	%			
地域経済の発展に	2,221	141,600	(21.3%)			8, 9, 11, 17
保健・医療・福祉に	2,394	152,600	(23.0%)			1, 2, 3, 10, 17
学校や教育に	1,428	91,000	(13.7%)			1, 4, 16
こどもの育成に	1,311	83,600	(12.6%)			1, 2, 4, 5, 16
道路・住宅・計画的な まちづくりに	852	54,300	(8.2%)			9, 11, 13
行政の運営に	713	45,500	(6.9%)			9, 11, 17
災害に強いまちに	439	28,000	(4.2%)			9, 11, 13
地域活動・文化・スポーツに	288	18,400	(2.8%)			3, 5, 8, 10, 11, 16, 17
清潔なまちに	305	19,500	(2.9%)			3, 4, 6, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14, 15, 17
地下鉄・水道事業の支援に	188	12,000	(1.8%)			6, 7, 9, 11, 12, 17
公園整備や緑の保全に	169	10,800	(1.6%)			11, 15, 17
新鮮で安全な食料の提供に	102	6,500	(1.0%)			2, 3, 6, 8, 9, 12, 13, 14, 15
合計	10,410	663,800	(100.0%)			

※令和3年12月末現在の人口(156万8,265人)で算出しています。
 ※()内は、構成比を示しています。
 ※SDGsについては、裏表紙をご確認ください。

市民一人あたりの予算約66万円は、
20政令指定都市中、3番目の多さです。

●予算を「家計」に例えると？

一般会計の予算(1兆410億円)を年間の収支が500万円(1ヶ月あたり41万6,000円)の家計に置き換えて説明します。

給与のうち、基本給の多くが市民の皆さんが納めた市税です。
諸手当のうち、地方交付税は、どの市町村も標準的なサービスを受けられるよう地域間格差を解消するため、国から交付されるものです。
また、国・県支出金は、生活保護や道路整備など市の事業の一部を国や県が一定割合を負担するものです。

ふくおか家・1カ月の家計簿

《収入》

給与	30万4,000円
（うち基本給 （市税などの自主財源）	17万円
諸手当	13万4,000円
銀行からの借入 （市債）	2万8,000円
貸したお金の返済金 （貸付金元利収入）	8万4,000円
計	41万6,000円

《支出》

医療費・保育料など （扶助費）	9万7,000円
ローンの返済 （公債費）	4万1,000円
食費 （人件費）	6万円
光熱費や通信費など （物件費）	4万9,000円
家・車・電化製品の修理・買い換え （維持補修費、普通建設事業費等）	3万8,000円
家族への仕送り （繰出金、補助費）	4万8,000円
友人などへ貸すお金 （貸付金等）	8万3,000円
計	41万6,000円

義務的経費

ローンを4万1,000円返済する一方、
新たな借入は2万8,000円に抑えました。
借金残高を減らす努力をしています。

医療費・保育料など(扶助費)、ローンの返済(公債費)、
食費(人件費)、の3つは、「義務的経費」と呼ばれています。

これが多いのは、一般家庭のエンゲル係数(家庭における食費の占める割合)が高いことと同じで、家計にあまり余裕がないことを意味します。ちなみに、福岡市の歳出総額に占める義務的経費の割合は47.6%で、政令市平均は55.8%です。

●どのような事業に使うの？

「ぬくもり」を感じられるまち

子どもの貧困の連鎖を断つ

子ども習い事応援事業

2億9,712万円

生活保護世帯または児童扶養手当受給世帯の小学5年生～中学3年生の習い事に係る費用を電子クーポンにより助成します。
(子ども1人あたり、月額上限1万円)



ヤングケアラー相談支援事業

3,520万円

ヤングケアラーへの支援のため、コーディネーターによる相談支援のほか、育児支援ヘルパー派遣、関係機関職員への研修等を実施します。

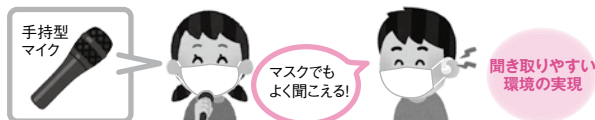


サポートを必要とする子どもたちのために

聴覚障がいのある児童生徒への補助装置の導入

783万円

補聴器を使用する児童生徒が在籍する小・中学校へ、聴こえを補う装置を導入します。



児童虐待防止のための相談支援の充実

7,222万円

児童生徒1人1台端末を活用した相談支援や、児童相談所における全国一元的なSNS相談を導入します。



安心して生み育てられる環境づくり

乳幼児健診情報のデジタル化

2,496万円

保護者がスマートフォンなどで問診項目の入力や受診結果の閲覧が可能になるとともに、医療機関と市で受診結果を即時共有できるシステムを構築します。



ひとり親家庭向け情報ナビ事業

1,615万円

ひとり親家庭向けの情報を集約したサイトを作成し、情報発信を強化します。



教育環境の充実

教育ビッグデータ活用調査検討経費

3,056万円

これからの新たな学びを実現する手段の一つとして、子どもたちの学力や健康状態など、様々な教育データの効果的な活用に向けた調査や分析方法の検討を行います。



公立夜間中学の運営

1,106万円

様々な事情で義務教育を十分に受けることができなかった方々に、就学の機会を提供するため、公立夜間中学「福岡きぼう中学校」を開校・運営します。

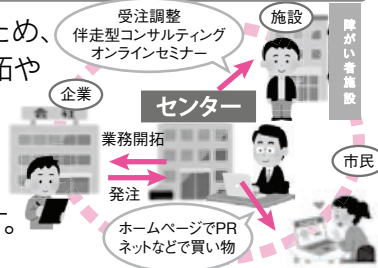


誰もが安心して暮らしやすいまち

障がい者施設工賃向上支援事業

3,600万円

工賃向上を図るため、新たな業務の開拓や各施設への受注支援等を行うセンターを新たに設置します。



タブレット活用による障がい者サービス向上

660万円

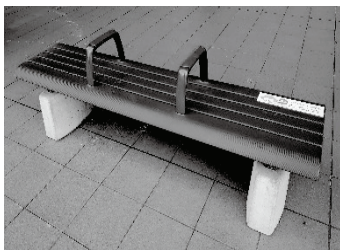
手話によるオンラインでの問合せ対応や視覚・聴覚障がい者の特性に応じた窓口対応のため、各区にタブレット端末を配置します。



ベンチプロジェクトの推進

6,933万円

市管理道路における設置可能なすべてのバス停にベンチを設置します。



アピアランスケア推進事業

880万円

がん罹患された方の社会参加を促進し、療養生活の質が向上するように、医療用ウィッグや補整具等の購入費用の一部を助成します。

地域コミュニティの活性化

町内会活動支援事業

4,103万円

町内会が主体的に行う地域活性化や課題解決のための活動に係る経費を助成します。



市民センター等 Wi-Fi 環境整備事業

2,236万円

施設利用者の利便性の向上を図るため、市民センター・地域交流センターにWi-Fi環境を整備します。



健康づくり・介護予防の推進

フレイル予防ハイリスク者支援事業

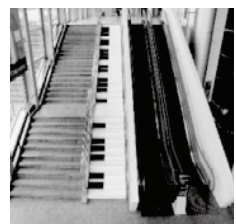
1,811万円

フレイルハイリスク者の把握及び専門職の訪問により必要な支援へ橋渡しを行います。

Fitness City プロジェクト

9,977万円

「住むだけで健康になるまちづくり」に向け、公園や道路、駅などの身近な環境を活用し、自然と楽しく体を動かしたくなる仕組みや仕掛けづくりに取り組みます。



上りたくなるデザインの階段

多様な魅力が輝く「彩り」のあるまち

Fukuoka Art NEXT

アートのある暮らしの推進、
「アートウィーク」の開催 **4,052万円**

「おうちにアートを、職場にアートを、街にアートを！」をコンセプトとした啓発や、アートフェアと連携したイベントを実施します。



アートフェアアジア福岡の官民共同開催 **400万円**

保税地域を活用しアートフェアアジア福岡を官民で共同開催し、海外ギャラリーの作品を展示します。



「アーティストカフェ」の開設・運営 **4,848万円**

旧舞鶴中学校を活用し、アーティストの創造活動・スタートアップを支援します。



「福岡アートアワード」の創設 **1,000万円**

若手を中心としたアーティストの育成を目的として、福岡市内で制作・発表を行うアーティストを対象にアワードを贈賞します。

豊かな自然を身近に感じられるまち

Fukuoka Green NEXT

油山市民の森等リニューアル事業 **5億7,087万円**

油山市民の森及び油山牧場のリニューアルに向けてインフラ施設整備、既存施設の建替・改修等を行います。



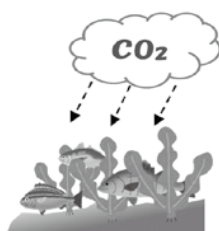
ウッドベンチ利活用事業 **386万円**

市内産木材の魅力进行PRし、木材利用の促進を図るため、木材の乾燥工程を兼ねた木製ベンチを製作・設置するとともに、乾燥完了した木材を使って玩具等を製作・配布します。



海の森づくり事業 **1,000万円**

藻場の再生・拡大により、漁場環境の改善を図るとともに、二酸化炭素の吸収を促進します。



植物園一人一花拠点機能強化 **3,584万円**

花・みどりづくりにかかる人材育成・活動支援の拡充等を行います。



啓発拠点施設(ボタニカルライフスクエア)

観光・MICEで賑わい、潤うまち

魅力あるナイトコンテンツの創出

3,618万円

福岡城・鴻臚館エリアにおける夜間の受入環境整備やコンテンツ造成を実施します。



修学旅行・バスツアー等による

周遊観光の推進

7,836万円

都市圏の自治体等と連携し、市内に宿泊する修学旅行やバスツアーの受入れ等に取り組み、都市圏を含む周遊観光を推進します。



多彩な人材や企業が集まるまち

外国人創業活動促進事業

989万円

国家戦略特区の制度等を活用し、日本で創業を志す外国人に必要なとされる在留資格「経営・管理」の取得要件を緩和することで、外国人起業家の集積や創業活動の促進を図ります。



国際金融機能の誘致

3,795万円

国際金融に特化したワンストップ窓口の運営やフィンテック事業者等への支援のほか、外資系金融機関等を対象としたプロモーション等を実施します。



未来に向けて挑戦するまち

九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり

10億6,583万円

先進的なまちづくりに向けた検討、土地利用事業者公募に伴う調整及び都市計画道路の整備等を行います。



水素リーダー都市プロジェクト

1億5,502万円

下水バイオガス水素ステーションの機能強化やFCモビリティ導入促進等の取組みにより水素関連産業の振興を図ります。



交通・人流・物流機能の強化

地下鉄七隈線延伸事業

60億1,600万円

令和5年3月の開業に向け、工事や試運転、各種検査等を実施します。



生活交通支援事業

1億1,316万円

バス路線の休廃止に伴う公共交通空白地への代替交通確保及びオンデマンド交通社会実験等を実施します。

<オンデマンド交通>



電話やスマートフォンで予約

AIが選ぶルートで効率的に運行

新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルスワクチン接種

70億1,044万円

医療機関等との調整や集団接種会場の設置・運営などを行い、新型コロナウイルスワクチンの追加接種（3回目接種）等を円滑に実施します。



検査体制の充実

15億6,337万円

医療・介護施設従事者等のスクリーニング検査や感染拡大期において医療機関で陽性者の同居家族等の検査を実施します。



商工金融資金預託金

1,948億7,600万円

市内中小企業・小規模事業者の資金需要に対応できる十分な融資枠を確保します。



商店街にぎわい回復支援事業

1,323万円

新規イベントの開催支援に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた商店街イベントの再開等を支援します。



GIGA スクールの推進

13億6,112万円

学習者用デジタル教科書の整備や、インターネット環境がない家庭へモバイルルータの貸し出しを行うなど、ICTを活用した学びの充実を図っていきます。



特別支援学校スクールバスの増便

1億2,301万円

乗車時の児童生徒間の身体的距離を確保するため、登校時のスクールバスを増便します。



主要事業

市民問合せ対応の充実

512万円

市民のニーズにマッチした使いやすいチャットボットを構築します。

プラスチック回収モデル事業

5,580万円

効果的な回収・リサイクル体制の構築に向けた課題を検証するため拠点回収モデル事業を実施します。



各区のまちづくり

東 区

窓口案内員の配置

390万円

東区役所に新設する総合案内窓口にて専任の総合案内員(派遣職員)を配置し、各手続き窓口に至る前の案内・問合せ対応等を行うことにより、来庁者の動線が明確になり、混雑緩和(密回避)・待ち時間の減少など来庁者の安全性・利便性の向上を図ります。



博多区

博多元気子育て支援事業

45万円

発達が気になる児とその保護者が安心してすごせるように、保護者同士が交流したり、専門職に相談できるサロンや、発達障がいについて理解を深めるための講演会を開催します。



中央区

中央区子どもと親の絆 CARE プログラム

26万円

保護者が適切な養育スキルを学び子どもとの良好な関係構築を図るプログラムを実施します。



南 区

サロン「みなみん」の開催やオンライン講座の配信

162万円

発達が気になる就学前の子どもと保護者のためのサロン「みなみん」の開催に加え、新たにオンライン講座を配信し、育児に悩む保護者の孤立化を予防します。



城南区

子育て支援課内相談室(心理面接室)の設置

567万円

木の持つリラックス効果を活かし、支援を要する子どもや子育ての相談に訪れる親が安心して相談できる相談室(心理面接室)を設置します。



早良区

さわら魅力アップ事業(さわらの秋)

320万円

「さわらの秋」を統一テーマに、地域の魅力やイベントなどを広くPRするとともに、南部の豊かな自然などの資源を活用した体験イベント等を実施し、地域のにぎわい創出に取り組みます。



西 区

地域自主防災力の充実・強化

187万円

避難行動要支援者の個別避難計画について、自治会単位での作成を支援します。また、地域で実施する防災訓練の支援や自主防災組織への研修会を通して、防災の啓発を図ります。

